

2026\_0202 「立春を前に～雪の金沢 奮闘の朝～」日々の理科 4194号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

北陸地方を襲った大雪の朝、金沢市の市街地もすっぽりと雪に覆われました。写真は、歴史ある街並みが広がる兼六園近くで撮影された一枚です。暦の上ではまもなく立春を迎えるという時期にもかかわらず、道路脇には高く積み上げられた雪の壁が続き、空気には冬の厳しさが色濃く残っています。

朝の通勤時間帯、雪道の影響で車列は長く伸び、慎重に進む車のブレーキランプが赤く連なっています。雪に慣れているはずの地元の方々でさえ、視界の悪さや路面状況に気を配りながらの運転を強いられ、日常の移動が一層大変になっている様子が伝わってきます。

その中で、黙々と走り続ける路線バスの姿が印象的です。屋根に雪を載せたまま、地域の足として運行を続ける姿は、豪雪地帯ならではの粘り強さを象徴しているようにも見えます。

この写真は、金沢に住む友人が撮影したものです。観光都市として知られる金沢の、華やかなイメージとは少し異なる、冬の厳しさと日常の奮闘が凝縮された一瞬を静かに切り取った貴重な写真です。

(2026年1月下旬／石川県金沢市)

